

神山神社だより

令和4年7月
34号

■ 夏祭りに向けて

令和二年・令和三年と本来の夏のお祭りが出来ず、夏の風物詩が消えた年でした。今年に入り新型コロナウイルスはオミクロン株に変異し感染率は高まるも重症者率は低くなりイベント等の活動も再開されるようになりました。まだ、予断を許す事は叶いませんが個人個人が感染対策に心がければ終息に向かうと信じています。そんな中では御座いますが今年には神山神社のお祭りを縮小並びに感染対策を考えた上で進める事としました。【緊急事態宣言が発令されれば中止します】

祭元(元野尻) 富籤(植苗木) 余興(長根) 注連縄(川西) 行燈(元中組)が当番となり進めて頂く予定です。四月に町内会長を含めた協議会を行なったところ「時機早計」「責任問題」等の意見が出ました。しかし時が過ぎる毎に地域の結束、伝統継承への意義が薄れてしまい、地域の小さな神社のお祭りさえ行わなくなってしまう状況です。本来であれば五年毎に祭りの当番

が回って来ますが今回は七年となり神楽、手踊り、注連縄作成の継承そのものも難しくなっています。これらのお祭りを鑑み、町内会の賛同を得て縮小並びに感染対策をし、執り行う事としました。

七月二十三日(土)試楽祭
七月二十四日(日)例大祭

中止する行事

子供相撲・子供手踊り

子供神輿

取り組みを変える行事

神楽・富籤・余興

具体的な内容については地区にお任せしている部分がありますので現段階では明らかに出来ませんが祭りを通じて少しでも地域の歯車が回ってくれることを願っています。

別途「神社お知らせ」にて報告させていただきます



テープカット

■ 社務所改築事業の件

五月八日竣工式 と

五月十五日内覧会 を執り行いました。建設委員・氏子総代のお手伝いにより盛況の内に進められ、多くの人に社務所を見ていただきました。特に内覧会を開催するに当っては神社の社宝である太刀「吉則」を市の文化振興課の職員のお手伝いにより展覧の準備が整った重要な文化財を多くの人に見ていただきました。また神社の他の文化財、ご寄付いただきました絵画も見せる事が出来ました。この先、



清め祓い

このような展覧会が出来るかわかりませんが社務所改築にあわせ行い事が出来ました事、感謝申し上げます。

本来であれば社務所が出来上がったので建設に関わる会計報告をするべきところで御座いますが一年前倒しで建設を始めましたので来年の三月まで入金支払い等が在ります。氏子区域の皆様には時期が来ましたら改めてご報告させていただきます。

御守り神札授与所

巫女アルバイト募集

皆様もご存知の通り昨年十月に御守り・神札の授与所を旧建物を利用して造りました。以前は旧社務所の一角を利用して正月の三ヶ日のみ頒布授与していましたが専用の所として利用できるようにしましたので祭りの際は御守りを頒布出来るようになります。

まずは夏祭り二日、正月に三日、お手伝いしてくれる高校生以上の女性二名を募集します。

連絡先

宮司まで 72-2892



永代供養施設

重要

説明会開催

社務所内の祖霊殿に位牌を納めるところが出来上がりしました。その「祖霊殿」と以前からある長根墓地の「神山神社祖霊の墓」の利便性につきまして説明会を開催する事と致します。

近い将来、位牌の安置場所やお墓を守る事が出来なくなってしまう家庭を対象に利用する為の条件や申請方法について説明します。宗教、宗派は問いませんが、少しでも困りごとが在りましたらご相談ください。なお福岡区以外の方でも承ります。

日付 八月十一日、十三日
時間 午前十時と午後一時
※説明会後、個別に承ります

神社周りの木の間伐実施

令和三年に続き、令和四年も神社林の間伐を執り行います。前回は植苗木地区奥の東山が対象でしたが今回は神社の左側森・上部森の木を間伐対象とし中津川森林組合にお願いしております。木が大きくなり密集しており、もし台風で倒れるような事があれば建物災害が起こる可能性がありますので間伐して少しでも不安を取り除きたいと思えます。実施時期は九月以降からと予定中です。

七夕の由来

七夕は、五節句のひとつとして江戸時代に制定されましたが古くからある行事だそうです。五節句は暦の中で奇数の重なる日を取り出して、季節の旬の植物から生命力をもらい邪気を祓うという目的から始まりました。

七夕は日本の神事である「棚機(たなばた)」(襖ぎ(みそぎ)行事)で、乙女が着物を織って棚にそなえ、神さまを迎えて秋の豊作を祈り人々の穢れを祓う行事です。それがおりひめとひこぼしの昔話と混ざり今に伝えられています。本来は神事で選ばれた乙女は川などの清い水辺にある機屋(はたや)にこもって神さまのために心をこ

めて着物を織ります。そのときに使われたのが「棚機」(たなばた)という織り機です。やがて仏教が伝わり、この行事はお盆を迎える準備として七月七日(旧暦)の夜に行われるようになりました。それで七夕を「たなばた」と呼びます。

そして竹に短冊を飾る習慣については暑い時期、食べ物が腐りやすくなります。竹(笹)の葉には抗菌効果があるため利用していました。ご先祖様へのお供物の下に敷き、防腐用として竹(笹)を使用、願い事やケガレと一緒に川に流す習慣がありました。七夕が昔、貴族文化だったころ、高価な紙に願い事を書いてお供物と一緒に七夕の日の朝に川へ流していましたが庶民に七夕文化が広まると天に向かって伸びる竹の葉に、願い事を短冊に書いて吊るし、天に届けるための形になりました。

安産祈願、初宮詣、厄除け、車のお被いなどの正式参拝の予約を承ります

お問合せ先

宮司 深谷 耕平

宅 ☎0573 - 72 - 2892